

JAPAN MUSIC EDUCATION SOCIETY

THE 54TH ANNUAL CONFERENCE

IN HIROSAKI

October
14-15
2023

日本音楽教育学会 第54回大会（弘前大会）

音楽教育とウェルビーイング：次世代に芸術が果たす役割を考える

Music Education and Well-Being: How Art Should Arise and Persist for the Next Generation

弘前大学教育学部（〒036-8560 青森県弘前市文京町1）

at Hirosaki University (1 Bunkyo-cho, Hirosaki-shi, Aomori-ken, 036-8560, Japan)

●基調講演 keynote

「子どもと現代音楽」三宅榛名(作曲家、ピアニスト) ※ビデオ動画での講演を予定しております。

Children and Contemporary Music: Haruna Miyake (Composer, Pianist)

10月14日(土) 14:00~16:00 弘前大学創立50周年記念会館 みちのくホール

大会参加費をお支払いいただくことで、どなたでも聴講できます。非会員の方の参加費用（1日のみ）は3,000円、学部学生の方は大会両日参加で1,000円になります。



【講演者 keynote speaker】

三宅榛名 Haruna Miyake

作曲家・ピアニスト。ジュリアード音楽院作曲科卒業。リンカーン・センター<新ホール>こけら落しに作品を委嘱される。オーケストラから邦楽器におよぶ作品を書き、ピアニストとしてはクラシックから即興演奏に至る広分野で活動を続ける。作品に<弦楽オーケストラの詩曲>(ベンジャミン賞)、<6月の6つの声>(リンカーン・センター委嘱)、<ピッコロ、フルート、ギターのための音楽>(W. ツインマーマン社刊)、<滅びた世界から>(国立劇場委嘱)など。CDに<いちめん菜の花>、<空気の音楽>(ロジマ録音)、<耳のごちそう>(IMA Shizuoka)など。著書に『アイヴスを聴いてごらんよ』(筑摩書房)、『地球は音楽のざわめき』(青土社)、『音楽未来派通信』、『作曲家の生活』(晶文社)など。



【パネリスト panelists】

小沼純一 Junichi Konuma

音楽を中心にしながら、文学、映画など他分野と音とのかかわりを探る批評を展開。現在、早稲田大学文学学術院教授。音楽・文芸批評家。音楽系著作に『小沼純一作曲論集成』『武満徹追憶』『バカラック、ルグラン、ジョピン 愛すべき音楽家たちの贈り物』『ミニマル・ミュージックその展開と思考』『魅せられた身体 旅する音楽家 コリン・マクフィーとその時代』『映画に耳を』『音楽に自然を聴く』『本を弾く』他。創作に『sotto』『しっぽがない』『ふりかえる日(ひ)、日(び)』『しかが』ほか。編著に『武満徹エッセイ選』『高橋悠治対談選』『ジョン・ケージ著作選』『柴田南雄著作集』ほか。NHK Eテレ『スコラ』坂本龍一音楽の学校のゲスト講師として出演。



【パネリスト panelists】

松永加也子 Kayako Matsunaga

国立音楽大学楽理学科卒業。第4回現代音楽ピアノコンクール第3位(フランス)。音楽舞踊新聞主催村松賞。第1回ヴェイナ・モダン・マスターズ国際演奏家録音賞コンペティション(オーストリア)第1位及び特別賞。武満徹企画「今日の音楽」やサントリー音楽財団主催サマーフェスティバルなど国内外の現代音楽祭に数多く出演。ソリストとして、岩城宏之指揮日本フィルハーモニー交響楽団、秋山和慶指揮東京交響楽団、ツォルト・ハマル指揮ポーランド放送交響楽団などオーケストラとの共演も多い。ソロCDは、ヴェイナ・モダン・マスターズ社(オーストリア)とナミ・レコードより発売されている。大阪芸術大学大学院より博士号(芸術文化学・論文博士)を授与された。現在、北海道教育大学岩見沢校芸術・スポーツ文化学科音楽文化専攻鍵盤楽器コース教授。



【パネリスト panelists】

沼田里衣 Rii Numata

知的障害者を含む人々を対象とした即興音楽ワークショップや公演を行う傍ら、技術や価値観の差異を超えた音楽作りについて研究する。2005年より「音遊びの会」主宰(～2017年)、2014年よりおとあそび工房(～2021年)を主宰する。音、からだ、ことばを使って様々な人々との対話を繰り返しながら思考する実践を、臨床音楽学研究として進めている。論文に「音とことばによる対話に関する臨床音楽学研究：『おとあそび工房』における試みから」(ほんまなほとの共著論文、アートミーツケア学会第13号)、『動いている音楽』一社会的課題と結びついた即興音楽の美的戦略に関する一考察(『JASMIIM ジャーナル vol.5』、共著に『障がいのある人の創作活動—実践の現場から』(ありり出版)等。博士(学術)。大阪公立大学文学研究科准教授。



【パネリスト panelists】

高橋憲人 Kento Takahashi

弘前大学教育学部生涯教育課程芸術文化専攻卒業、同大学院教育学研究科修士課程、同大学院地域社会研究科後期博士課程修了(博士(学術))。芸術教育学、生態芸術論を専門とする。弘前大学人文社会科学部研究機関研究員、同大学院地域社会研究科客員研究員を経て、現在弘前大学教育学部助教。津軽漆連代表。著書に『環境が芸術になるとき：肌理の芸術論』(第3回日本サウンドスケープ協会奨励賞、単著、春秋社)、『Drawing Tube vol.01 Archive』(鈴木ヒラコ、華雪との共著、Drawing Tube)、『大学的青森ガイド—こたわりの歩き方』(分担執筆、昭和堂)がある。



【企画・司会 panel chair】

今田匡彦 Tadahiko Imada

国立音楽大卒業後カナダ政府給費留学。サイモン・フレーサー大学大学院修士課程、プリティッシュ・コロンビア大学大学院博士課程修了(哲学博士)。英国ロンドンのローハンブトン大学博士研究員を経て、現在、弘前大学教育学部、同大学院人文社会科学部研究科、地域社会研究科教授。著書に『哲学音楽論』(単著、恒星社厚生閣)、『音さがしの本』(R. マリー・シェーファーとの共著、春秋社)、Oxford Handbook of Philosophy in Music Education(共著、Oxford University Press)、Creativity in Music Education(共著、Springer)、The Routledge Companion to Teaching Music Composition in Schools(近刊、共著、Routledge)など。

主催：日本音楽教育学会

Presented by the Japan Music Education Society

共催：弘前大学附属国際音楽センター

Hirosaki University International Music Centre

<https://jmes54-hirosaki.com/>

お問い合わせ For More Information :
n.oda7@hirosaki-u.ac.jp (小田直弥)

